

雜 報

大東亞戰爭日記摘要

9月23日午後3時30分大本營發表 アリュウシャン列島方面帝國潜水艦は8月31日アトカ島ナザン灣を奇襲し米甲巡ノザンブトン型1隻に大損害を與へ更に帝國驅逐艦は9月中旬同方面に於て敵潜水艦2隻を撃沈した。

9月25日午後4時30分大本營發表 大西洋方面作戦中の帝國潜水艦の1隻は最近歐洲の獨某海軍基地に奇襲し再び作戦海域に向け出動せり。

9月27日 第3回中央協力會議土曜、日曜ぬきで開かれ必勝の意氣大に昂る。

10月7日 本年第1回米豫想收穫高は6730萬石で前年實收比2割2分2厘増と農林省發表す。

10月8日 去る1日英國兵俘虜1800名及び我陸軍將兵少數を乗せた陸軍輸送船りすぼん丸が南方某港より内地への航海中、東支那海で米潜水艦の襲撃を受け沈没した。

金 屬 回 收

名古屋新聞 9月17日

一般家庭並びに寺院教會墓地等の金屬特別回收が市内は11月1日からはじまるが今回の回收は一切の銅鐵製品は残らず供出するのを原則とするがこのうち拵郎引のもの、皇室に關係あるもの國貨並びに重要美術品、縣認定の美術工藝品、現に炊事用等に使用中のもの、工作物類で法令により設置を規定されたものは回收から除外され家庭の佛具のうち三具足は代替品入手まで回收を延期される。

日本 9月27日

高岡市伏木では金屬回收運動について協議を重ねた結果10月5日から向ふ6日間にわたつて町内會員、婦人會、青少年團協力のもとに各戸にわたつて回收し一應町内會長宅に集めることとなつた。

日本工業 9月24日

金屬回收統制會社の設立に伴ふ日本鐵屑統制會社の發展的解消により日本鐵屑統制會社大阪營業所は金屬回收統制會社大阪支社と改稱鐵屑統制會社指定商協力會大阪支部においてもまた名稱を金屬回收統制株式會社指定商協力會大阪支部と變更した。

臺灣日々 9月29日

島都の街頭を飾つてゐた鈴蘭燈やネオン燈や辻々に立てられた「火の用心」廣告入りの標識燈は事變以來點燈しないまゝ鐵屑となつて設置され無用の長物となつてゐたのを古鐵銅回收の國策に即應して回收される事に決定した。

大阪 9月30日

來る10月1日から全国的にまた金屬類特別回收が實施されるが大阪府でもこれに呼應して今回の回收には警察權を發動する事になり經濟警察を動員して來る10月5日から10日まで指定施設の抜打検査を行ひ申込を怠つたり供出物件を隠匿するものには嚴罰をもつてのぞむことになつた。また供出物件その他について指導するため經濟警察協會や指定施設關係者を集めての懇談會を開催して本趣旨の徹底を期することになつてゐるがこれらの施設物件で供出對象となるものは手摺、格子鐵柵、シャンデリア、門扉軒樋その他で一般家庭の窓格子溝蓋は今冬中には全部回收されることになつた。

大阪 10月3日

さる一日から全国的に繰展げられた家庭の銅鐵回收は、今度出來た「金屬回收統制會社」が引受ける事になつた。從來工場その他などから出る金屬屑や指定施設の銅鐵回收は日本鐵屑統制ならびに日本故銅統制會社がこれにあたり家庭の銅鐵回收は戰時物資活用協會が受持ち三本建で全國の銅鐵回收が行はれて來たが今回回收配給計畫を單一化し輸送勞力資材などの節減をはかり事務を一層簡易化すべく商工省の斡旋で鐵鋼、鑛山、金屬工業、機械工業などの各統制會が總計500萬圓を出資して去る7月末新たに「金屬回收統制會社」の設立となつたこの新會社の社長には元大藏省銀行局長大久保債次氏常務取締役には海軍中將酒井茂吉氏が就任去9月21日から店開きした。

名古屋新聞 10月4日

商工省では在庫物資の活用に萬全を期するため三日付商工省告示及び地方長官宛通牒をもつて物資統制令第21條により物資の譲渡又は引渡し命令及臨檢検査の權限を地方長官に委譲し重要物資管理營團に對しては、同令第6條の譲渡請求權及び第7條の引渡し請求權を賦與すると共に重要物資管理營團法第17條の検査權を認可した。譲渡及引渡を受くべき物資は、普通鋼、銑鐵、特殊鋼、鍛鋼品、鑄鋼品、合金鐵等である。

名古屋新聞 10月14日

重要物資管理營團では去る5月15日より7月末まで重要物資の第一次買上げを實施したがこのほど買上げ整理が完了したので鐵鋼類の需要家に對して、自發的に不急不要の鐵鋼類を供出したものに對して13日より、希望鐵鋼の特別配給を行ふこととなつた。なほ特別配給に當つては、鐵鋼統制會が數量その他を査定の上特別配給切符を發行し鐵鋼販賣會社を通じて供出者に配給する。

鐵 鋼 統 制 會

滿洲新聞 8月23日

滿洲經濟建設に於ける鐵鋼部門の諸施策を協議し日本の鐵鋼統制會に對應して大東亞鐵鋼關係事業の綜合的計畫の實施に資することを目的として過般來之が設立準備中であつた。社團法人滿洲鐵鋼協議會は鐵鋼懇話會の發展的解消其他設立に關する諸般の準備を完了したので20日鐵鋼協議會發會式が盛大に舉行された。

滿洲新聞 8月24日

鐵鋼協議會設立準備會では水津鐵鋼統制會理事の來滿を機に19日午後1時より新京中銀俱樂部に於て鐵鋼官民懇談會を開催した。

1. 日本製鐵業の現況並に之が生産増強上の諸問題

1. 鐵鋼統制會の運営方策と今後の動向

1. 日滿支綜合製鐵計畫の實施を前提とする機材並に生産設備の交流方策(産業設備營團の運営方向)

1. 北支製鐵計畫と滿洲鐵鋼業の關聯等日滿支製鐵業の當面する諸問題に關し水津統制會理事の説明を中心として懇談を進め更に北野鑛山司長より滿洲製鐵業の現況とその生産力擴充に關する諸條件を指摘して之が適切なる對策を統制會側に要望する等統制會對滿洲側の相互認識に多大の成果を收めた。

滿洲日々 9月2日

さきに設立をみた鐵鋼協議會では國內鐵鋼關係事業の相互連絡強

化と日本側鐵鋼統制會との連絡協調の二面から政府と渾然一體たる総合的鐵鋼統制機能の完全發揮を目標にこれが運営方針の決定を急いでゐるが當面の方針としては、鐵鋼生産貨態の調査と諮問事項に對する答申案を作成業者より政府提出の報告届出、認許可書類の單一取扱による煩雜なる統制事務の簡捷化を擧げてゐるが漸次これが發展を期し事務局機構の整備と相俟つて企業業務を開始する方針である。

大阪朝日 9月10日

鐵鋼統制會ではかねてより製鐵原料の計費輸送案につき鐵道當局と協議の結果諒解に達したので差當り製鐵用原料たる生石灰及燒苦灰の鐵道輸送に對し切符制度を採用する事に決定このほど同實施要綱案も成り、10月1日から實施する運びとなつた。

大阪毎日 9月18日

鐵鋼統制會では、鐵鋼増産対策を商工當局をはじめ關係官廳に提出した、今回の増産策は原料ならびに生産過程を通じ、いづれもその根本的障壁は輸送力にありとしこの點を強調したのであるが關係當局の諒解により船腹緩和の目鼻がついたことは注目される。

臺灣日々 9月21日

臺灣に認められる唯一の統制會として、その實現が官民各方面より要望されてゐる臺灣鐵工業統制會の設立推進に最後の折衝がばれた。

東京中外 9月24日

鐵鋼統制會では自由勞務者の徹底的移動防止策を講ずるため、その具體的措置として自由勞務者に對する賃金統制令の全面的適用並た勞務報國會の結成を當局に要望實現を期することとなつた。

滿洲日々 9月26日

目下來京の梅根滿洲鐵鋼協議會理事長は近く正式に新京に赴任することとなつたが、同氏は同協議會當面の計畫として資源の徹底的調査を強調した。

東京中外 10月4日

鐵鋼、鐵鋼製品の泰佛印向輸出が決定した。

臺灣日々 10月3日

臺灣鐵工業統制會では軍需品の補充的生産を目標とした。

臺灣日々 9月29日

臺灣鐵工業統制會は無條件承認設立と決定 10月末に事業を開始する方針である。

京城日報 9月19日

本溪湖鐵鋼公司では昨年11月宮野原工場に於ける新設熔鐵爐火入式を行つて以來建設工事が進められてゐた新熔鐵爐が近く完成をみる事になつた、これにより同社の生産能力は一躍六割増強され戦時下特殊用途をもつ低磷鉄の積極的増産が期待されてゐる。

九州日々 10月7日

特殊鋼協議會ではかねて特殊鋼の生産能率向上及資材節約をはかるべく寸法の單純化につき研究してゐたがこの程成案を得たので會員に對しては來る10日までに需要者團體には15日までにそれぞれ右原案に對する賛否の應答を求めた上理事會を開き正式決定する事務局案によれば現在4536種に上る特殊鋼寸法を約4種内外に激減せんとするものである。一方第二次製品メーカーの再編成も極めて緊急を要するので鐵鋼局長通牒に基きこれが具體化を急ぎ來る

6日にはピアノ7日には磨特殊鋼板の二協議會を設立準備委員會を開く豫定で既に創立された特殊鋼線及び特殊鋼帯の再製品協議會と共に四團體が特殊鋼製品協議會を結成する運びになつた。

滿洲日々 10月12日 (日滿物動の高度化)

商工省では明年度物動樹立には素材のみならず製品部門も可及的に編入、物動の合理化を図ることに決定した製品物動としては、既に自動車、車輛等があるわけであるが機械製品その他には需要の測定企畫の不統一等種々技術的難關を伴つてゐるが來年度には主として鐵鋼製品について一部物動編入を實行することになり目下商工省で研究中であるがこれが實施に與つては可能な限りにおいて規格の統一が行はれる。

滿洲日々 10月1日 (製鋼増産)

本年度下期の鐵礦石供給を確保し鐵鋼増産を強力に推進するため東海道鐵礦の増産が喫緊の問題たるに鑑みこの程必要な器材を昭和製鋼、本溪湖の豫備器材中より轉用輸送力の増強に充て鐵礦供給確保に萬全を期することになつた。

滿洲日々 10月19日 (鐵礦脈發見)

數日前に寶庫東邊道七道溝に新鐵礦脈が發見された新たに發見された、同鐵脈は七道溝探礦場の向側山麓で目下詳細に調査が進められてゐるが質量共に有望視されてゐる、しかも本鐵脈は優秀なマンガンを含有して居りこれが開發にも拍車がかげられるものと豫想され新鐵脈の徹底的調査の結果鐵鋼増産計畫は一段と展開を來すものと頗る期待されてゐる。

東京都 9月14日 (製鐵設備の標準化)

製鐵關係の設備は從來製鐵業者ごとに異つて居り、従つて製鐵用設備に對應する機械器具も又種々雑多であつたため、原材料を必要以上に消化するのみならず生産能率を阻害する點が少くなかつたが今回の設備標準化によつて各設備をあはせて約25種類程度の激減するものとみられ、今度の資材配給などもすべてこの標準によつて行はれるので原材料の節約は勿論生産擴充の促進に拍車をかけるものと期待されてゐる。

臺灣日々 10月3日

高雄製鐵の創設、年度中に完成せん。

日鐵など鐵鋼功勞者を表彰

來る20日舉式静岡日々 10月17日

鐵鋼統制會では會員中發明その他により鐵鋼界に貢獻したる三社以下7892人の表彰式を來る20日午前10時半より帝國ホテルに開催する。被表彰者次の通り。

特定表彰(三社)日本製鐵(單獨平爐冷鉄鑄石法の研究)日本鋼管(トーマス製鋼作業完成)昭和製鋼(強酸性作業により鉄生産の作業)

發明者(26件38名) 日本製鐵(9件16名) 日本鋼管(6件6名) 三菱鋼材(1件5名) 日本製鋼(2件2名) 昭和製鋼(8件9名)

精勵者(52名)

永年勤績者(20年以上) 7799名

なほ發明者中劃期的發明より『特選』の榮譽を受けるものは次の三者である。

九月中開催の委員会名並に其の議題

第1部

1. 第1部第一委員会打合せ 2回2日 9,9~9,23
 1. 罐用継目無鋼管の寸法単純化
 2. 一般用継目無鋼管の寸法単純化
 3. 罐用歴延鋼材の改正
 4. 高圧用鋼管規格制定に關し意見の交換
2. 第1部第2委員会小委員会 2回2日 9,22~9,23
 1. アルミニウム合金分析方法
 2. マグネシウム合金分析方法
3. 第1部第五委員会 9,15
鐵及鋼砒素, ワナヂウム, クロム, ニッケル, タングステン
各分析方法

第2部

4. 第2部第21委員会 4回 9,5~9,11~9,25
色(測色小委員会, 製作小委員会)
5. 第2部第14委員会 9,30
コークス分析及試験方法
6. 第2部第26委員会 9,28
 1. 耐火物の耐圧強度試験方法
 2. 耐火物及其の原料の化學分析方法
 3. 光學ガラス製造用原料藥品の試験方法
 4. 熔融酸化アルミニウム質砒料化學分析方法
 5. ノズル品質及寸法規格
 6. ストツバ " "
 7. 取鍋 " "
7. 第2部臨時第5委員会(新設) 9,25
 1. 委員長互選
 2. ガラス織物

第3部

8. 第3部第2委員会 9,7
自轉車用ランプケース
9. 第3部第5委員会 9,16
 1. 珪素鋼板
 2. 珪素鋼板標準磁氣試験方法
10. 第3部第5委員会 9,23
起重機用全閉巻線型三相誘導電動機

11. 第3部第7委員会
電氣用絶緣ワニス
12. 第3部第9委員会 9,17
 1. 架空配電線用アルミ線導體接續管
 2. アルミ線壓縮接續工具
13. 第3部臨時第2委員会 9,10
電氣用石棉セメント板

第4部

14. 第4部第1委員会 9,8
 1. 刻印に依るネジの表示方法
 2. 工作機械に用ふるねじをメートルねじに統一するの件
 3. 叩スバナ
15. 第4部第2委員会 9,23
フランジ規格中改正
16. 第4部第4委員会第2小委員会 2回2日 9,4~9,17
 1. センタ孔
 2. センタ錐
 3. センタリーマ
17. 第4部第7委員会 2回2日 9,10~9,30
製圖規格中改正
18. 第4部第12委員会 9,11
 1. 自動車用 スバナ
 2. 自動車用スプライン接手
 3. 自動車用ユニオン管接手
19. 第4部臨時第3委員会 2回2日 9,3~9,29
起重機
20. 第4部臨時第4委員会 9,18
動力用ブッシュドロローラーチェーン

○整理委員会

21. 整理委員会 9,22
規格番號規格

外に

22. 急速制定を要する品目選定に關する打合せ 9,10
23. 規格制定に關する打合せ 9,25
 1. 急速規格制定を要する品目
 2. 規格制定方法に對する意見
 3. 一の品目に屬する規格の實施方法